

変革・創造・実践

MONTHLY ZEN-NOH GUNMA

県本部通信

2015
April

No. 157

4

特集

平成27年度
全農群馬県本部組織機構図
平成27年度事業計画書



JA全農ぐんま



私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

事業のうごき 4

営農総合支援センター

- 豪雪被害に係る野菜の生産支援
- JA-TAC活動及び担当者の育成支援
- 担い手対策のための取り組み
- 農産物の安全・安心対策への取り組み

畜産農産部

酪農畜産課

- 生乳の計画生産の推進
- 初妊牛導入推進
- 素牛導入推進
- 種豚導入推進
- 渋川家畜市場若齢子牛の集荷推進
(優良ET卵産子の活用促進)

米麦特産課

- こんにやく 荒粉・製粉販売推進 (入札の実施)
- きのこ 種菌当用推進

園芸部

園芸販売課

- 共計ほうれん草販売 (周年)
- 共計チンゲンサイ販売 (周年)
- 共計味にら販売 (周年)
- 共計山うど販売 (4月末日迄)
- 共計ふき販売 (5月末日迄)
- 共計ブリックスナイン販売 (6月末日迄)
- 県統一規格共計きゅうり販売 (7月末日迄)

販売促進課

- 春野菜販売促進
- もやし類・加工野菜販売促進
- 花き類販売促進

園芸資材課

- 雪害によるハウス建替資材の手配及び納入
- 雪害による出荷資材対応
- 春夏用出荷資材予約・当用推進
(ほうれん草・きゅうり・ふき他)
- 春夏用青果物段ボール予約・当用推進
- 農業用資材予約・当用推進
- 春夏用野菜種子推進 (ほうれん草他)
- トマトセル苗当用推進

生産資材部

花木流通センター

- 売出し・フェアの実施
- ☆花木流通センター
4月10日(金)～13日(月)
春一番園芸フェア
4月17日(金)～20日(月)
春の菜園フェア
4月25日(土)～5月6日(水)
ゴールデンウィーク菜園フェア
- ☆愛菜館
4月8日(水)・18日(土)・29日(水)
8の日 お米特売
4月25日(土)～5月6日(水)
ゴールデンウィーク菜園フェア協賛セール
- 造園工事推進

肥料農業課

- セルフブレンド推進
- 施設園芸肥料推進
- 水稻農業推進
- 茎葉処理除草剤大型規格推進

農業機械課

- 丸山サンクスキャンペーン (9月末日迄)

生活部

生活課

- 太陽光発電推進 (周年)

葬祭総合課

- 生花利用拡大運動推進 (周年)

施設住宅課

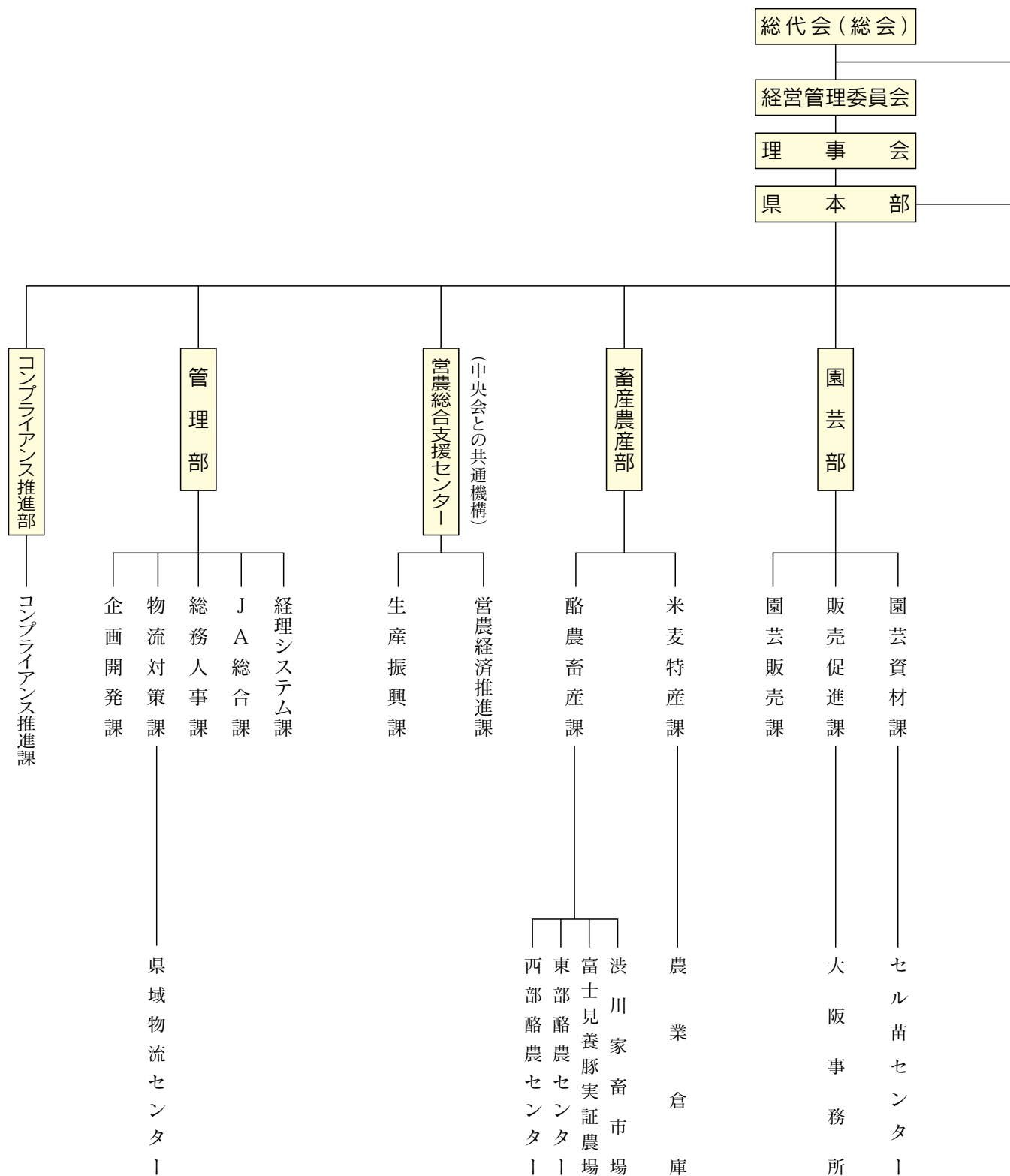
- 賃貸アパート・個人住宅推進 (周年)
- カクイチ物置・広スペースハウス推進 (周年)
- 住友不動産(株)「新築そっくりさん」推進 (周年)

自動車燃料部

ガス課

- 平成27年度ガス器具特別推進
- 平成27年度第一回クミアイガス器具推進

◆平成27年度 全農群馬県本部 組織機構図



平成27年4月1日現在

監 事 会

県本部運営委員会

生産資材部

花木流通センター
肥料農業課
農業機械課
新前橋農畜産物直販所愛菜館
大間々分室
農機センター
土壌診断センター

生活部

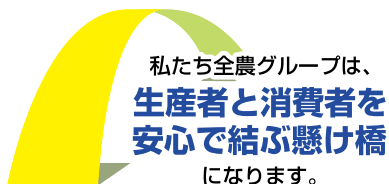
生活課
葬祭総合課
施設住宅課
JAアシスト東部館
葬祭会館
一級建築士事務所

自動車燃料部

自動車センター
石油課
ガス課
給油所
LPガスセンター

平成27年度 事業計画書

全農グループ経営理念



私たちは「**安心**」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全国農業協同組合連合会 群馬県本部

I. 基本方向

日本農業は、農家の高齢化や後継者不足等による耕作放棄地や遊休農地の拡大などもあり、耕地面積や農家戸数の減少による生産基盤の減少が続いています。肥料・飼料・原油など海外供給に依存する生産資材原料は、新興国の経済成長等により需給の逼迫が続き、干ばつ等の天候不順や地政学的リスク等により不安定な状況が続いています。

一方、国産農畜産物価格は、消費量の減少に加え24・25年産の豊作等による米の下落、猛暑や豚流行性下痢（PED）等による出荷数重量の減少等に伴う畜産物の上昇、豪雪・台風等の自然災害や天候の時期的変動が影響する青果物など、生産品目により異なっています。このような状況の中、オーストラリアと協定書への署名が行われ、EUやカナダ等と協議が続くEPAに加え、早期決着に向けて交渉を続けているTPPなど、日本の農業生産基盤への影響が懸念されています。TPP参加を前提とした米の減反政策の段階的な見直しなど、農業政策も大きな転換期を迎えています。

農畜産物流通分野では食の外部化の進行に加え、消費の簡便化・小口化等のニーズが強まって

おり、食品企業などの農業参入による産地の囲い込みが進んでいます。JAグループとしても、消費者のニーズに合った農畜産物や加工品の生産を手掛けることにより、農家の安定的な手取り確保ができるような支援を求められています。

また、地域社会では、高齢化・人口減少により集落機能が低下し、買い物弱者の増加やライフラインの確保への不安といった問題が顕在化するなど、地域の活力が損なわれてきています。JAグループにおいても組合員の世代交代がすすむ中、組合員の第二・第三世代や地域住民全体の生活を支え、豊かで暮らしやすい地域づくりが求められています。

これらの環境変化に迅速かつ円滑に対応するため、トータルコストの削減と本部間連携による推進力・販売力の強化など、「全農ならではの」施策の展開や農業生産基盤の維持・拡充に向け、JAと一体となった生産の支援による元気な産地づくりに取り組み、組合員・JAさらに消費者・取引先から信頼される組織を確立し、懸け橋機能を強化していきます。

また、戦略的かつ効率的な業務執行体制と経営管理体制を確立するとともに、事業拠点の統廃合など経営資源の集約・再配置を行うことで、スリムで強固な組織体制と、事業環境の変化や合併JAの高度な要求に俊敏に対応し得る事業体制

を構築していきます。

群馬県本部では上記の考え方を踏まえ、経営理念に基づき、担い手対応の強化、生産者・組合員の手取り最大化、安全で新鮮な国産農畜産物の提供、事業の広域化や一体化など事業毎に最適な事業形態を検討・実践し、組合員・会員への最大奉仕と地域社会の発展に貢献するという使命を達成するため、県域としての事業競争力の強化、県産農畜産物の販売力強化、安全・安心な農畜産物の提供、事業領域の拡大ならびに経営体質の強化が可能となる、次の戦略と体制の構築に取り組めます。

1. 事業競争力の強化

- (1) 県域物流への取り組みなど、低コスト生産に向けた物流合理化体制整備や仕入れ機能の強化・低コスト資材の普及等による生産資材コストの低減
- (2) 生産・販売一貫体制の構築およびJ Aとの連携による担い手や第二・第三世代等に対する対応力強化
- (3) 県本部の事業改革の着実な実践とJ A経済事業改革に対する支援の強化、および農業機械事業・石油事業等のJ Aと県本部が一体的に運営する事業方式の強化
- (4) 雪害からの農業用施設の早期復旧と復旧までの所得確保のための支援

2. 県産農畜産物の販売力強化

- (1) 卸売市場との連携や実需者との結びつきによる販売力の強化
- (2) 直販方式やI T活用等多様な販売体制の強化とJ Aグループ群馬内の品目を横断した総合販売体制の検討・確立
- (3) 青果物の一次加工等バリューチェーンの構築など地域組合員・利用者のニーズを踏まえたサービスの効率的な提供による販売力強化
- (4) 消費者・需要者に支持される農畜産物づくりに向けた生産振興・販売企画の強化

3. 安全・安心な農畜産物の提供

- (1) 消費者に安全・安心な農畜産物を届けるため

の生産履歴記帳運動等の徹底に基づく県下統一のトレーサビリティシステムの有効活用

- (2) 食品を取り扱うすべての部署・子会社等での表示等に関する日常点検の強化

4. 事業領域の拡大

- (1) 地球環境に配慮した生産資材の供給や、畜産廃棄物の還元等の環境保全・循環型農業生産を通じた農業の展開の支援
- (2) 老後を安心しておくれる、J A高齢者対策事業の展開
- (3) 都市と農村の交流事業など組合員・消費者の変化に対応した事業の展開

5. 経営体質の強化

- (1) 業務内容の多様化・高度化に対応した、業務執行体制の合理化・効率化ならびに人材の開発と有効活用
- (2) 事業環境の変化に対応した、事業関連施設の経営改善および統廃合の実施
- (3) 子会社等と県本部関連事業部門との有機的連携強化、ならびに効率的かつ適正な運営のための機能の見直し
- (4) 部門損益改善を通じた効率的・合理的な事業および業務体系の構築と、事業部門毎の労働生産性の向上および要員適正化への取り組み
- (5) J A・組合員への支援機能の円滑化・効率化のための機構整備
- (6) 機能を担う主体別に分類した事業毎の事業競争力の強化と効率的な事業方式の実現

【事業3分類】

- ① J A主体で県本部が補完支援する事業
- ② J A・県本部一体化事業
- ③ 一部機能を除いた県域主体の事業

Ⅱ. 事業方針の概要

1. 営農総合支援センター

担い手への営農支援を軸とした地域生産振興と安全・安心な農産物の生産体制を確立し、信頼さ

れる産地づくりに取り組みます。また、TAC活動の実践と強化に向けた総合的な事業対応に取り組むとともに、担い手に対して力強い経営体の育成と確保を図るための取り組みを実施します。

- (1) 生産振興事業では野菜の生産拡大や安全・安心な農産物の生産体制を確立するため、関係機関・各部門と連携しJAの取り組みを支援します。また、雪害による施設復旧までの所得確保のための代替品目の生産提案と生産出荷計画の作成を支援します。
- (2) 営農経済推進事業ではTAC活動および担当者の育成を支援するとともに各部門と連携し、担い手の育成・確保に向けた取り組みを支援します。

2. 畜産農産部

県内畜産事業の振興と生産流通体制の維持・強化を図るため、畜産関連諸団体との連携により、生産基盤維持拡充対策や環境対策等に取り組みます。また、米穀および本県特産物の生産・販売体制の強化と全国本部との連携による事業拡大を図るとともに、流通コストの削減に努めます。

- (1) 畜産事業では生産基盤維持拡充対策や環境に優しい畜産事業を促進するとともに、JAの生産・経営指導の強化を図るため、JAと県本部との一体的事業推進体制と畜産経営支援体制の構築を図り、本県畜産物の販売力強化を促進します。
- (2) 米麦大豆事業では米の「買取方式」の継続実施、民間流通麦の播種前契約、大豆の契約栽培を基本とし、良品質な生産物の販売推進を実施します。
- (3) 特産事業ではこんにゃく取扱の拡大・販売力の強化・きのこ生産資材の安定供給に努めます。

3. 園芸部

青果・花きの販売と資材供給体制を一元化するとともに、高品質・安全な青果物等の生産を支援し、系統共販による販売体制の強化を図ります。また、営農総合支援センターと協調し、担い手支援対策・新産地育成事業等を実施して生産基盤の

強化を図ります。更に、JAと一体となった事業戦略や経営資源の効率的活用等についての検討を進めます。

- (1) 園芸販売事業では雪害からの復旧支援を最優先に、JA・関係機関等と連携し、県産青果物の安全性に対する信頼の獲得に努め、高品質で安全な青果物等の生産を支援します。また、一元分荷体制の強化や系統共販体制の推進強化、実需者への直接販売および卸売市場経由の直販事業の拡充強化により、県域総合力の発揮と野菜価格安定事業の充実強化に取り組めます。
- (2) 販売促進事業ではGルート販売(契約的販売)の拡大と消費宣伝活動の強化を図り、県産青果物の地位向上と有利販売に取り組めます。
- (3) 園芸資材事業では雪害による農業用ハウス資材の計画的納品を図り、早期復旧に努めます。

4. 生産資材部

JA組合員の農業経営の確立を図るため、生産資材コスト低減を基本とする生産資材購買体制ならびに推進体制の強化を図ります。また、新鮮で安全・安心な農産物を消費者に届けます。

- (1) 花木事業ではグリーン資材や生園芸を充実し、生産資材店舗への物流拠点としての機能強化を図るとともに、消費者に新鮮で安全・安心な農産物を届けるため生産履歴のチェックや食品表示の日常点検を徹底し、産直店舗の内容充実に努めます。
- (2) 肥料農薬事業では担い手対策・施肥コスト抑制銘柄の普及・推進により、生産資材コスト低減に取り組めます。
- (3) 農業機械事業ではJA・県域農機一体事業運営の実践と機能強化・事業拡大による収支確立を図ります。

5. 生活部

JA・組合員・消費者等のニーズを的確に把握し安心と信頼に応えるため、JAとの連携による推進体制を強化し、事業の普及・拡大に努めます。また、重点実施策の実践と新規事業の提案による対応力の強化を図り組織用品、葬祭・施設・設計、

住宅事業に取り組みます。

- (1) 組織用品事業では組合員・消費者のニーズに
適応した生活関連商品の提供に努めるととも
に、環境保全型・省エネ型商品の取り扱い体
制を強化し、事業拡大に取り組みます。
- (2) 葬祭事業では J A・組合員への信頼に応える
ため、葬儀管理システムによる情報の共有化
と総合力発揮による支援体制を構築し、J A
葬祭事業の拡大を図ります。
- (3) 施設・設計事業では施主代行方式による新規
施設建設と既存施設の補改修等の提案に取り
組みます。
- (4) 住宅事業では組合員の資産管理ニーズに応え
るため、個人住宅・賃貸住宅の建設やリフォーム
等の建設コンサルの実施及び賃貸住宅の入
居募集支援に取り組みます。

6. 自動車燃料部

自動車燃料事業を取り巻く環境は、少子高齢化
による自動車保有人口の減少、ハイブリッド車・
電気自動車・クリーンディーゼル等エコカーの普
及に伴う燃料油の需要減少、さらに太陽光発電・
オール電化住宅の増加によるガス需要減少等大き
く変化しています。このような中、組合員・利用
者に対する「安定供給」・「利便性の向上」・「安全・
安心・快適」の提供を図るため、J A との一体的
事業体制の構築・拡充による事業基盤の確立と事
業競争力の強化に取り組みます。

- (1) 組合員・地域生活者のニーズに適応した自動
車・石油・L P ガスの事業運営と取扱体制の
確立を図ります。
- (2) 自動車事業では J A 整備事業の効率的な運営
及び J A 間における下取車再販支援に取り組
みます。
- (3) 石油事業では県域拠点再編計画に基づき、
S S 事業の再構築と配送施設の集約を進め、
事業競争力の強化を図ります。
- (4) L P ガス事業では効率的な運営と事業競争力
の強化を図るため、新たな事業体制の構築に
取り組みます。

7. 管理部門

合理的・効率的な管理により、充実した事業展
開が図れるよう事業部門の補完・支援に努めま
す。また、コンプライアンスの徹底や J A 経済事
業改革や県産農畜産物の販売力強化の支援なら
びに J A・会員への対応体制を維持し、全国本部
との重複機能の削除や広域化・システム化など
によりスリム化を図ります。

- (1) コンプライアンスの推進では県本部(子会社
等含む)におけるコンプライアンスの徹底に
よる消費者・生産者・取引先からの更なる信
頼獲得やリスク管理体制の確立と内部統制シ
ステムの有効な運用に努めます。
- (2) 消費者に安全で新鮮な農畜産物を提供し、信
頼される事業者としての責務を果たすため、
食品の品質・表示に係る管理を徹底します。
- (3) 物流では中部物流センターを基幹拠点として
充実させるとともに、営農や生産資材部門と
連携を図ることにより J A 経済事業改革支援
機能を強化し、県内物流合理化体制の構築に
努めます。
- (4) 事業環境の変化に対応した直販方式や I T 活
用など多様な販売体制の強化や品目を横断し
た総合販売体制の検討・確立を図るとともに、
事業関連施設など経営資源の集約・再配置を
検討・実施します。
- (5) 広報では群馬県内外の各種イベントや情報誌
等により、県内農畜産物の P R と情報の収
集・発信に努めます。

Ⅲ. 部門別重点実施策

【営農総合支援センター】

【生産振興】

1. 野菜の生産拡大を図るため、関係機関や各部
門との連携を図り、J A の野菜振興のための
取り組みを支援します。また、雪害による施
設復旧までの所得確保のための代替品目の生
産提案と生産出荷計画の作成を支援します。
2. 安全・安心な農産物の生産体制を確立するた
め、J A の生産履歴記帳推進ならびに、G A P

(農業生産工程管理)の普及のための取り組みを支援します。

3. 営農経済情報の収集・提供ならびに優良技術の導入を支援します。

[営農経済推進]

1. TAC活動および担当者の育成を支援します。
2. J Aの担い手育成・確保に向けた取り組みを支援します。
3. J A-TAC担当者との連携により、大規模農家・農業生産法人等への担い手対応を支援します。
4. J A-TAC活動を支援するとともに、担い手への対応を強化し、J A事業の利用促進に努めます。

[畜産農産部]

[酪農畜産]

1. 系統畜産事業の競争力強化と組合員サービスの向上を目指し、J Aと県本部との一体的な経営体制の構築に向けた検討に取り組みます。
2. 畜産振興ならびに生産流通事業の効率的な運営をおこなうため、J A・飼料会社・食肉卸売市場・畜産関連諸団体と有機的連携を図り、機能の再構築に取り組みます。
3. 畜産生産基盤の維持・拡充強化に取り組み、高品質で消費者が安心できる畜産物の生産・販売供給体制の強化を図るとともに、的確な個体管理を推進しトレーサビリティの確立を支援します。
4. 畜産環境対策に対する取り組みを支援し、地域社会と調和のとれた畜産経営を推進するため、環境に優しい施設改善・畜産資材等の利用を促進します。
5. 畜産農家経営の健全化を図るため、畜産関連諸団体および子会社等との連携により、J A畜産事業の生産・経営指導体制の強化に向けた支援体制の確立を図ります。
6. J A・畜産関連諸団体および子会社等との連携により、県産畜産物の競争力強化を促進します。

7. 生乳の集配送業務の効率化と組合員サービスの強化を図るため、J A酪農事業の推進体制の見直しに取り組みます。

8. 渋川子牛市場の活性化を図るため導入育成牛の普及・推進に取り組みます。

[米麦特産]

1. 「買取方式」継続実施により実勢に即した販売価格の形成及び実需者との連携による安定的取引を図り、生産者の手取アップに向けた販売力強化を図ります。
2. 状況に応じた買取手法を活用し生産者への集荷サービス拡充を図るとともに、営農・購買部門と連携した大規模生産者への集荷推進を実施しJ Aと連携した集荷数量拡大に取り組みます。
3. 新規需要米(飼料用米)の作付拡大を図り、主食用米の計画生産を通じた水田機能の維持に取り組みます。
4. 実需ニーズに見合った適地・適品種等の良質麦の計画生産を推進し、民間流通麦の作付面積・生産量の維持と取扱強化を図ります。
5. 大豆の契約栽培等の計画的な販売による需要の確保と需給調整機能の発揮により、生産者手取りの確保を図ります。
6. 袋資材では低コスト化・省力化・環境対策に取り組むとともに需要構造の変化や事業再編に対応した購買力強化を図るための施策を展開します。
7. こんにゃくの生産維持と取扱の拡大を図るため、加工対策(荒粉・精粉)の強化による通年販売と製造業者向け生ずり用生玉の販路の開拓を進め、有利販売に努めます。
8. 乾しいたけ販売体制の合理化を進めるとともに、きのか経営向上のための生産技術指導の強化と生産資材の安定供給に努めます。

[園芸部]

[園芸販売・販売促進]

1. 卸売市場販売の強化
 - (1) 系統共販体制の強化と共計販売品目の拡充強化を図ります。

- (2) 卸売市場との連携を深め、Gルート販売（契約的販売）の拡充強化を図ります。
- (3) 県行政と連携を図り群馬県産青果物・花きの消費宣伝事業の充実強化を図ります。
- (4) 関係機関と連携・協調し、需給調整事業の効果的・効率的な実施に取り組みます。
- (5) 安全・安心に関わる情報の定期的発信に努めます。

2. 直販事業の強化

- (1) 実需者への直接販売及び卸売市場経由の直販事業の拡充強化を図ります。
- (2) 一次加工処理事業実施により、販路の拡大と販売の強化を図るとともに、加工原料の生産振興・産地開発に取り組みます。
- (3) 全農グループ直販施設（JA全農青果センター等）と連携し付加価値を高めた販売強化を図ります。
- (4) 加工・業務向け販売について、加工事業者等と連携し、新産地育成を踏まえた原料供給を行い、生産・販売一体となった仕組みを構築します。
- (5) 営業活動の充実と顧客管理の強化等により、実需者との関わり合いを深め、直販事業の拡大を図る体制を構築します。

3. 生産振興対策

- (1) 生産基盤強化の支援を行うとともに、JAと一体となった事業戦略や経営資源の効率的な活用等を進めます。
- (2) コンテナ流通等（バラ集荷・規格の簡素化も含む）を積極的に活用し生産者の労力軽減対策を実施します。
- (3) 生産履歴記帳の徹底、残留農薬自主検査の推進により安全・安心な青果物生産を促進します。
- (4) 野菜価格安定事業の推進と交付予約数量の適正化を図り農家経営の支援を行います。
- (5) 雪害からの復旧支援として代替品目の生産振興と既存品目の販売強化を図ります。

[園芸資材]

1. 雪害による農業用ハウス資材の計画的納品を図り、早期復旧に努めます。
2. 販売事業との連携強化により、出荷資材の規格統一や新素材・機能資材の導入提案を実施し、事業拡大を図ります。
3. 低コスト資材や環境問題に対応する資材の普及推進を図ります。
 - (1) 農業資材（生分解マルチ・省エネ資材）
 - (2) 包装資材（リターナブルコンテナ・PLAパック）
 - (3) 段ボール資材（新形状・省力型・低コスト原紙）
4. JA別資材担当者研修会等の実施により、推進力強化に取り組みます。
5. 野菜・花き産地に適した種苗事業の拡大を図ります。
6. セル苗センターの効率的運用により、健全優良苗の安定供給に努めます。

[生産資材部]

[花木流通センター]

1. 花・鉢物、野菜苗、植木など県内優良生産者を中心とした生園芸の内容充実と資材の大量購入のメリットを活かし、仕入の強化を図ります。
2. 新鮮で安全・安心な農産物を消費者に届けるため生産履歴をチェックするとともに、産直農家および県内有名産地の野菜を集荷品揃えた産直店舗の内容充実を図ります。
3. 消費者に安心して購入していただくため、食品表示の日常点検を徹底します。
4. 消費者とJAグループ・生産者の接点を深め栽培講習会・収穫体験・親子食育教室などの事業を実施します。

[肥料農薬]

1. 肥料
 - (1) 土壌診断に基づく施肥コスト抑制銘柄の普及・推進を実施し、施肥コスト抑制に取り組みます。
 - (2) 担い手への対応強化と生産資材コストの

低減を図るため、肥料満車直送等を推進します。

- (3) 大口農家・生産法人等に対して担い手対策を実施するとともに地域に適した肥料（セルフブレンダー）の推進を実施します。
- (4) J Aの営農経済渉外担当と連動した農家訪問推進J Aの拡大を図ります。

2. 農薬

- (1) 生産資材コスト低減と大口農家・生産法人等の担い手対策として系統独自剤・ジェネリック剤・農薬大型規格品等の普及推進を強化します。
- (2) 環境保全型農業を推進するため、生物農薬や交信攪乱農薬等、環境に優しい薬剤の取扱を拡大します。
- (3) 農薬適正使用と安全防除を推進します。

[農業機械]

1. J A・県域農機事業一体運営の機能強化による事業拡大と収支確立を図ります。
2. J Aグループ独自型式等の重点機種対策による安価な農機の取扱拡大を図ります。
3. 中古農機の取扱体制の強化を図ります。
4. 農閑期を活用した格納点検整備の強化により、農業機械の長持ち志向に応えます。
5. 農機レンタルの実証事業とモデル作りを実施します。

[生活部]

[生活]

1. 太陽光発電システム等の環境保全型・省エネ型商品の取扱強化と総合的な推進体制の構築を図り、事業の拡大に取り組みます。
2. 組織食品は、国産農畜産物の愛用や地産地消品目を取り入れた事業拡大に取り組みます。
3. J Aと連携した推進体制を構築し、組合員の資産保全（シロアリ防除・瓦補修等）の事業に取り組みます。
4. 健康関連商品への取り組みを強化し、組合員の健康増進を図ります。
5. J A直売所間連携による品揃えの充実と店舗運営の取り組みを支援します。

6. 新たなJ A生活事業の実践運動（J Aくらしの宅配便の導入・利用者懇談会の設置等）に取り組み、J A生活事業の体制強化を図ります。

[葬祭総合]

1. J A総合事業の特典を備えた葬儀会員制度の加入促進と葬儀施行件数の拡大の取り組みを支援します。
2. 多様化する葬儀ニーズに対応したJ A葬祭事業の取り組みを支援します。
3. J A葬祭会館の運営を支援し、J A葬祭事業の維持・拡大を図るとともにオリジナル供物・生花等の関連事業の取扱拡大を図ります。
4. 顧客管理データを活用した関連用品（墓碑・法事・ギフト等）の拡大を図ります。
5. 職員教育を徹底し接客マナー等の向上を図ります。

[施設住宅]

1. 施主代行の計画作成から設計・施工管理にいたる総合的機能を発揮し、低コストで合理的な施設建設に取り組みます。
2. J A等の既存施設の補改修等の提案を実施し、施設の有効活用を進めます。
3. J Aカンントリーエレベーターの施設診断を行い、補改修・機械更新の提案を実施します。
4. 賃貸住宅の系統仕様基準を基本とし、入居者ニーズに合った賃貸住宅建設に取り組みます。
5. 組合員の資産活用に応えるため、相続対策セミナー・土地活用セミナー・相談会等の窓口相談機能を強化し、事業の拡大に取り組みます。
6. 賃貸住宅の経営安定のため、巡回点検、管理会社との定期的な対策会議、大手Web検索サイトへの空室物件掲載等を実施します。

[自動車燃料部]

[自動車センター]

1. J A自動車整備事業の強化を図ります。
 - (1) 整備技術（ハイブリッド車、電気自動車

を含む)の向上を図り、安全・安心・信頼されるアフターサービス体制の構築に取り組めます。

- (2) J A整備工場の運営・経営改善の取り組みを支援するとともに、J Aと連携強化し整備事業の取り扱い拡大を図ります。

2. 自動車販売事業の強化を図ります。

- (1) エコカーの取り扱いを強化し、顧客の維持・拡大を図ります。
- (2) J A間における下取車再販の情報提供に努めます。

[石 油]

1. J A－S Sの運営体制強化に取り組めます。

- (1) S Sスタッフの階層別現場力指導を強化し、職員の資質向上を図ります。
- (2) J Aの特殊性を活かした取り組みを強化し、競合S Sとの差別化を図り、J A取り扱いシェアの拡大に努めます。
- (3) J A S S－N E Tシステムの情報活用により、事務の効率化と販売力の強化に取り組めます。

2. J A－S S及び配送施設の拠点再編に取り組めます。

- (1) 再編計画に基づき、フル・セルフの運営形態を明確にした拠点づくりに取り組めます。
- (2) セルフS Sの設置促進を進めます。
- (3) 老朽化施設の安全対策として施設改善に取り組めます。

3. 物流コストの削減と安定供給体制の確立を図ります。

- (1) 配送施設の集約による物流の合理化とコスト削減に取り組めます。
- (2) 災害時の供給体制の強化と緊急対応設備の設置促進を図ります。

[ガ ス]

1. 時代の変遷と共に変化する各種家庭用エネルギーの取扱と推進体制の強化を図ります。

- (1) 切り替え防止と家庭用新エネルギーの取扱拡大に取り組めます。
- (2) 家庭用燃料転換活動の展開により小売機能強化を図ります。

2. 保安対策の強化を図ります。

- (1) 高機能安全装置付きガス器具・機器・省エネ機器の普及促進を図ります。
- (2) 系統安全化システム（ガスカッチ：無線化N C U）の普及拡大により、保安サービスの向上とコスト削減に取り組めます。
- (3) 保安点検調査体制を強化し消費者に安全・安心を提供します。

3. L Pガスシステム（供給センター・保安情報管理）の更なる互換性を高め、J Aの保安事務の合理化・効率化と迅速な情報提供に努めます。

4. L Pガス事業の事業競争力と基盤強化を図るため、新たな事業体制の構築に取り組めます。





肉用牛合同研修会
(3.6 JAビル)



平成26年度石油事業一体化経営委員会
(3.16 JAビル)

■ 畜産経営のヒントを学ぶ

3月6日(金)、(公社)群馬県畜産協会・(一社)家畜改良事業団前橋種雄牛センター・各種協議会・当県本部共催の「平成26年度 肉用牛合同研修会」が開催され、生産者やJAの畜産担当者等が参加しました。第1部では各団体による事業・情勢報告等が行われ、続く第2部では(一社)家畜改良事業団家畜改良技術研究所の黒木氏、農林水産省生産局畜産部長の原田氏による講演がそれぞれ行われました。

■ 事業強化に向けて協議

3月16日(月)、県内JAの組合長・理事長及び当県本部の関係役職員参集のもと、「平成26年度石油事業一体化経営委員会」が開催されました。会場では、「平成26年度事業報告」・「平成27年度事業計画」・「覚書の締結」・「平成27年度役員体制」についての協議が行われ、全て可決承認されました。



JAグループ野菜生産拡大研修会
(3.24 群馬県産業技術センター)



平成26年度 退職者を送る集い
(3.31 JAビル)

■ 野菜振興の取り組み強化に向けて

3月24日(火)、群馬県営農総合支援センター主催の「JAグループ野菜生産拡大研修会」が開催され、14JA・県・当県本部の担当者等約60名が出席しました。研修会では、平成26年度JA野菜振興計画取り組み実績の報告や、野菜振興支援策等の説明が行われました。また、全国本部直販企画室長の木村氏による「青果物流通の変化と加工・業務用野菜への取り組み」と題した講演も行われました。

■ 感謝の気持ちを込めて

在職中、群馬県の農業振興のために尽力された本会職員の退職にあたり、「平成26年度退職者を送る集い」が本会職員列席のもと、JAビルにおいて開催されました。

挨拶に立った須藤本部長が敬意と感謝の言葉を述べるとともに、終了後は参列者からの盛大な拍手の中、温かく見送られました。

一層の生産拡大と販売促進に向けて

～ 3.18 群馬県青果物販売促進会議 渋川市 ～

3月18日(水)、県・群馬県園芸振興協議会・当県本部共催の「群馬県青果物販売促進会議」が開催され、県内各JA・JA関連団体・全国主要青果物卸売会社・流通関係者等、約200名が参加しました。この会議は、市場をはじめとする流通関係者に対し、本県産青果物の更なる販売促進を行うとともに、関係機関の連携により生

産振興及び生産・流通・販売体制の強化を図ることを目的に毎年開催されています。当日は、優良卸売会社表彰並びに実需者の表彰や、本県の園芸振興対策や平成27年度青果物生産出荷基本計画についての説明、フリーアナウンサーの青木氏による「声が変わると笑顔が増える」と題した講演が行われました。



▲ 会場の様子



▲ 会場の様子



▲ 講演を行う青木氏

日頃の感謝の気持ちを込めて

～ 3.7～8 20～23 大創業祭 愛菜館・花木センター ～

3月7日(土)、8日(日)の2日間、愛菜館で14周年大創業祭が開催されました。期間中は、来場者への花苗プレゼントや(株)群馬県食肉卸売市場による上州牛・上州豚試食販売、生産者による青空市などの各種イベントが行われました。

また、花木流通センターでは3月20日(金)～

23日(月)の4日間、40周年大創業祭が開催されました。期間中は、群馬県産農畜産物フェアや、(株)群馬県食肉卸売市場・JA高崎ハム(株)の試食販売、じゃがいものつめ放題、こんにやく製品の試食販売などが行われました。両会場共に、多くの来場者で賑わいました。



▲ 愛菜館の様子



▲ 花木センターの様子

みどりの風 放映予定

GTV 48ch 放映のお知らせ

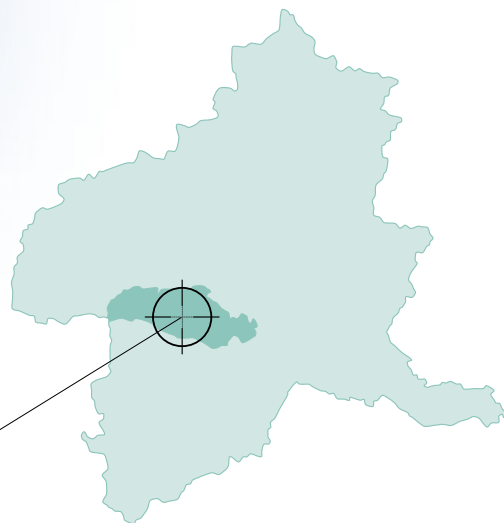
番組名／提供	放送日 ※再放送日	時 間
愛情いっぱい！藪塚こだま西瓜／JA太田市	※ 5月 3日(日)	AM 8:00～8:30
	5月 4日(月)	PM 9:00～9:30
上野村の「美味しい」をお届け／JA上野村	※ 5月10日(日)	AM 8:00～8:30



山部 朱里アナ

農業 チャレンジャー

JAはぐくみ



困難を乗り越えて 収穫の喜びを実感

JAはぐくみ管内 堀内 勝嗣 さん



堀内 勝嗣
(ほりうち・しょうじ) さん
1968年生まれ、46歳。

栽培面積：150a
趣 味：バイク（ツーリング）

新規就農への思い

今回のチャレンジャーは、JAはぐくみ管内でネギの栽培を行う堀内さんです。「自由に行える農業に魅力を感じ、5年前に新規就農しました。自らが中心となって物事を進めたいタイプなので、自分に合った職業だと思います。就農前に通っていた専門学校での経験を活かし、機械化による大規模経営を視野に入れた栽培を行っています。」と話します。

JAはぐくみねぎ部会に所属し、規格に合った良品質なネギを安定的に生産するため、圃場視察や勉強会などにも参加しています。

農業の魅力と厳しさ

農業にやりがいを感じ、日々の作業に邁進している堀内さんですが、就農当初は苦労したそうです。「新規就農だったため、放棄地を開墾するところから始めました。下地をつくるまでが大変でした。また、昨年発生した豪雪により、6棟の育苗ハウスのうち3棟が倒壊しました。自然災害の恐ろしさを痛感しま

したが、『何事も経験』と思い、ハウスの再建に取り組んでいます。マニュアルどおりには進まないのが農業です。だからこそ、納得のいくものができた時は本当に嬉しいです。家族や周囲の方々と協力し合い、前向きに頑張っています。」と話してくれました。

チャレンジ精神持ち続けたい

最後に、今後の展望を伺うと、「経営の効率化と規模拡大に向け、更なる設備投資を検討しています。また、ネギ以外の作物にも少しずつ挑戦してみたいですね。現在は、アスパラガスを試験的に栽培しています。就農して5年目、様々なことがありましたが、農業の道を選んで良かったと思っています。多くの人に農業の魅力を知ってもらい、地域農業が更に活性化することを願っています。」と堀内さん。

熱い思いで農業に従事する姿に、今後一層の活躍が期待されます。



1 プライベートの時間も大切にしている堀内さん。大好きなバイクで、日本中を巡っている。

2 圃場の様子。

3 丹精込めてつくった、こだわりのネギ。

4 今(3月)は収穫時期。家族と従業員と共に作業を行っている。

がんばってまーす!

INTERVIEW

JA邑楽館林
農畜産部 営農対策課

落合 威夫さん

Profile

おちあい・たけお（24歳）

趣味.....体を動かすこと
休日の過ごし方.....テニス・ダーツ（マイダーツ持ってます!）
好きな食べ物.....ラーメン・きゅうりの漬物
●職場の皆さんからみた落合さん
「何事にも興味を持って積極的に取り組む、若手のホープです。職員一同、今後一層の活躍に期待しています!」

「地域農業を、若い力で盛り上げます!」

——どうしてJAで働こうと思ったのですか？

祖父母が農家で、小さい頃から手伝いをしていたため、農業はずっと身近にありました。また、大学でTPPに関する授業を受けたことが、地域農業の力になりたいと考える大きなきっかけとなり、就職を決めました。

——現在の仕事内容を教えてください。

高齢化等で利用されなくなった農地を、若い農業者に貸すなど、農地の貸借の仲介業務を行っています。農地の有効利用を推進するため、何度も組合員さんのもとに足を運んでいます。

——他にはどのような仕事をされていますか？

毎年、米の収穫期には集荷の手伝いをしています。一袋30kg程の米袋を持ち運びするのですが、体力には自信があるので、苦にはなりません。

——入組当初は大変でしたか？

はい。右も左も分からない状態だったので、知識の習得には苦労しました。自分より組合員さんの方がずっと知識があるので、分からないことは積極的に聞く

ようにしていました。また、組合員さんの家の場所を覚えるのも大変でしたね。3年目となった今では、地図を見なくても、組合員さんの家に行けるようになりました。

——仕事をするにあたり、気を付けていることがあれば教えてください。

話し方には気をつけるようにしています。入組当初、マナー研修で習った通りの話し方をしていたら、組合員さんに「そんな話し方をしていたらいつになっても距離が縮まらないよ。」と言われた経験があります。固すぎず、砕けすぎず、親しみやすい話し方を心がけています。

——職場の雰囲気はどうか。

職場の方々は、年齢や立場を気にせず、気軽に相談にのってくれます。分からないことは、いつも丁寧に教えてくれるので感謝しています。

——趣味は体を動かすことだそうですね。

はい。スキーとテニスを小さい頃から始め、今でも続けています。休日には、地元の友人と一緒にテニスをする事が多いです。

——好きな食べ物はラーメンとのことですが。

はい! 学生時代、大学の近くがラーメン激戦区であったので、頻繁に食べていました。今でも週に3日は食べています。

——最後に、今後の意気込みを聞かせてください。

今はまだ周囲の皆さんに助けられてばかりですが、感謝の気持ちを忘れず、一日も早く立派なJA職員になりたいと思います。また、後輩ができた自分先が先輩方に教えてもらったことを、後輩に伝えていきたいです。今後も地域農業の更なる活性化に向けて頑張ります!

——落合さん、これからも頑張ってください。お忙しい中ありがとうございました。



▲JA邑楽館林のキャラクター、でんえんまと一緒に

畜産ダイジェスト

酪農情勢

■生乳生産量

農林水産省は3月25日に2月の牛乳乳製品統計を公表した。2月生乳生産量は57万2,758tで前年同月並(100.0%)となった。北海道は29万5,982t(前年同月比0.9%増)で生産量の全国シェアは51.7%となった。

都府県の生産量は27万6,776tとなり、前年同月比で0.9%減少した。

■販売及び乳製品情勢

2月の用途別処理量は、牛乳等向けが29万8,632t(前年同月比1.3%減)、乳製品向けが26万9,253t(〃1.6%増)となった。

飲用牛乳等生産量は26万5,309ℓ(〃1.4%減)で前月から1.5ポイント減少し、内牛乳が23万1,651ℓ(〃0.7%減)、さらに乳飲料は9万1,227ℓ(〃3.0%減)で前月より1.3ポイント減少した。

生乳生産量と用途別処理量

(単位：t、%)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生乳生産量	全 国	626,764	650,316	618,861	618,018	600,000	583,464
	群馬(委託実績)	18,815	19,236	17,948	17,609	16,953	16,478
	本会(委託実績)	6,193	6,293	5,833	5,646	5,411	5,264
用途別処理量	飲用牛乳等向け	318,995	342,141	345,154	337,099	316,617	342,273
	乳製品向け	302,703	303,151	268,658	275,983	278,484	236,281
	その他向け	5,066	5,024	5,049	4,936	4,899	4,910
前年対比	生乳生産量(全国)	96.4	96.9	97.0	97.8	98.8	98.4
	〃(群馬)	96.0	96.4	96.3	96.3	96.5	96.6
	〃(本会)	94.4	94.8	94.7	94.2	95.5	94.0
	飲用牛乳等向け	98.4	98.8	99.6	96.4	96.2	96.8
	乳製品向け	94.2	94.7	93.6	99.4	101.6	100.6
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	598,138	583,790	613,257	623,753	572,758		6,689,119
	16,997	16,740	17,449	17,994	16,708		192,928
	5,468	5,364	5,559	5,729	5,342		62,103
	345,738	324,568	306,000	314,487	298,632		3,591,704
	247,492	254,239	302,239	304,357	269,253		3,042,840
	4,908	4,983	5,018	4,909	4,873		54,575
	98.3	99.3	99.5	99.6	100.0		98.4
	96.6	98.1	97.2	98.3	104.5		97.5
	94.8	96.4	95.8	97.1	100.9		95.7
	98.7	99.7	99.6	100.2	98.7		98.5
	97.7	98.7	99.2	98.8	101.6		98.2

肉牛情勢

肉牛枝肉相場(4月予想) 牛肉は上向く。バーベキューなど行楽需要が伸びる。小売各社は5月のGW前から販促を仕掛ける構え。

肉牛枝肉相場(予想)

和牛去勢A5 2,550円中心
和牛去勢A4 2,300円中心

和牛去勢A3 2,150円中心
和牛去勢A2 1,830円中心
交雑去勢B3 1,600円中心
交雑去勢B2 1,550円中心
乳牛去勢B2 950円中心
交雑去勢B4 1,790円中心

枝肉価格の推移(群馬県食肉卸売市場)

(単位：円/kg、税込み)

年・月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・計
和牛去勢A4	25年-26年 1,749	1,829	1,901	1,829	1,832	1,896	1,929	1,999	2,076	1,900	1,904	1,902	1,896
	26年-27年 1,899	1,914	1,893	1,862	1,959	2,006	2,129	2,166	2,163	2,297	2,288	2,257	2,069
	前年格差 150	85	▲8	33	127	110	200	167	87	397	384	355	174
和牛去勢A3	25年-26年 1,627	1,717	1,710	1,664	1,649	1,710	1,780	1,852	1,813	1,658	1,693	1,718	1,716
	26年-27年 1,669	1,664	1,658	1,662	1,726	1,797	1,988	2,019	1,933	2,059	2,079	2,055	1,859
	前年格差 42	▲53	▲52	▲2	77	87	208	167	120	401	386	337	143
和牛去勢A2	25年-26年 1,508	1,472	1,522	1,441	1,405	1,521	1,662	1,579	1,583	1,371	1,516	1,478	1,505
	26年-27年 1,516	1,492	1,486	1,455	1,532	1,663	1,757	1,863	1,648	1,819	2,000	1,828	1,672
	前年格差 8	20	▲36	14	127	142	95	284	65	448	484	350	167

群馬県食肉卸売市場上場頭数

(単位：頭)

年・月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・計
25年-26年	1,236	929	898	1,126	1,098	1,090	1,162	1,584	1,385	1,132	1,186	1,139	13,965
26年-27年	1,291	1,098	1,104	1,262	1,068	1,216	1,232	1,465	1,385	1,005	1,091	1,012	14,229
前年増減	55	169	206	136	▲30	126	70	▲119	0	▲127	▲95	▲127	264

■素牛動向

- ①全農・取引基準価格(乳去) 260~300kg 558円/kg平均(前月比98.8%)
- ②F1価格(去勢) 250~300kg 1,313円/kg平均(雌) 250~300kg 1,190円/kg平均
- ③和牛子牛(去勢) 668千円平均(前月比102%) (雌) 579千円平均(前月比102%)

養豚情勢

枝肉相場関係

豚群馬県食肉卸売市場（上物加重・円/kg）

※平成25年4月より相対を含む。（単位：円税込）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
24年-25年(A)		397	420	479	443	468	425	365	358	418	363	390	404	411
25年-26年(B)		450	499	485	498	507	499	466	477	521	458	467	496	485
26年-27年(C)		553	582	621	580	548	548	517	569	609	547	588	565	569
(B-A)		53	79	6	55	39	74	101	119	103	95	77	92	74
(C-B)		103	83	136	82	41	49	51	92	88	89	121	69	84

豚肉価格形成要因

豚群馬県食肉卸売市場と畜頭数（自家用と畜は除く）

（単位：頭）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間頭数
と畜頭数	25-26年	42,393	40,315	34,599	40,317	37,843	39,480	47,010	43,823	45,029	43,425	39,985	39,852	494,071
	26-27年	44,690	39,069	36,628	39,821	35,032	40,542	44,979	36,865	41,060	39,158	37,138	39,152	474,134
前年比(%)		105.4	96.9	105.9	98.8	92.6	102.7	95.7	84.1	91.2	90.2	92.9	98.2	96.0

肉豚生産出荷予測（全国） * 2月まで実績／3月以降の出荷予測は

3月9日付けで農水省畜産部食肉鶏卵課が発表

（単位：千頭、前年同月比%）

区分	月	11月	12月	10~12月	1月	2月	3月	1~3月	4月	5月	6月	4~6月	7月	8月
全国出荷予測頭数(千頭)		1,288	1,470	4,187	1,349	1,282	1,360	3,991	1,359	1,286	1,256	3,902	1,273	1,263
前年同月比(%)		86	95	91	93	96	99	96	98	98	101	99	93	103

■生産動向：農水省食肉鶏卵課の肉豚生産出荷予測によると、4月の出荷見込頭数は1,359千頭(前年同月比98%)となっている。その後は5月1,286千頭(〃98%)、6月1,256千頭(〃101%)と予想されている。豚肉相場は、ほぼ横ばい。高値圏に張り付いているが消費は底堅い。競合する輸入物が高いため、家庭向けも堅調に動く。米国での港湾ストの影響が完全に解消するまで、米国、カナダ産は増加しにくい。

鶏卵情勢

鶏卵相場関係

■Mサイズ基準値

15年4月225円(見込み) 101%(前年比)

（単位：円）

価格の推移

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
25年-26年(A)		172	164	155	157	175	211	220	260	280	224	240	230	207
26年-27年(B)		223	204	199	190	192	231	240	242	248	192	209	219	216
(B-A)		51	40	44	33	17	20	20	▲18	▲32	▲32	▲31	▲11	8
全国基金	25-26年	15,714	21,645	24.3	24.3	9,306	0	0	0	0	0	0	0	
補填	26-27年	0	0	0	2,088	0	0	0	0	0	2,907	0	0	

※平成24年度鶏卵価格差補填事業については、9月以降補填財源はありません。

■価格動向：3月の平均単価は219円(前年同月▲11円)と前年同月を下回り、平成26年4月～平成27年3月期平均は216円(前年同期比+8円)であった。

■出荷動向：温暖な気候で産卵率、産卵量が増える。しかし若鶏への入れ替えが多く、産卵する鶏の数が減っているため、市場に出回る量が少ない。

■需要動向：月前半は学校給食が再開し、花見で行楽向けの消費がある。月後半は5月の大型連休向けの手配が動く。今後も堅調に推移する見込み。

卵価要因

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
加工卵輸入実績(t)	25-26年	2,283	2,151	1,776	2,084	2,488	1,867	2,201	2,451	2,631	3,060	2,845	2,688	28,525
	26-27年	2,286	2,314	2,393	2,427	2,137	1,974	2,273	1,877	2,192	2,058			21,931
前年比(%)		100.2	107.6	134.8	116.5	85.9	105.7	103.3	76.6	83.3	67.3			76.9
餌付羽数(千羽)	25-26年	7,742	7,767	7,895	7,200	6,896	8,170	7,346	7,464	7,636	7,251	7,569	7,734	90,670
	26-27年	7,715	8,291	8,405	8,408	7,048	8,622	8,071	7,369	8,295	7,941	7,764		87,929
前年比(%)		99.7	106.7	106.5	116.8	102.2	105.5	109.9	98.7	108.6	109.5	102.6		97.0

■餌付見込

※農水省は餌付け羽数見込みを公表しないことになったため、今後、餌付け羽数実績のみ掲載することになります。

■価格の推移

(7) 23年:188円
(1) 17年:204円 (4) 20年:193円 (8) 24年:181円
(2) 18年:184円 (5) 21年:175円 (9) 25年:207円
(3) 19年:169円 (6) 22年:194円 (10) 26年:216円

■原料情勢

①とうもろこし（シカゴ定期）

3月10日の米国農務省需給見通しによると、米国とうもろこしの新穀2014/15年度産における単収、期首在庫および供給量はそれぞれ171.0ブッシェル/エーカー、1,232百万ブッシェルおよび15,472百万ブッシェルと前月発表から据置で見通された。需要量については、飼料用向けと輸出向けで50百万ブッシェルずつ上方修正されたものの、エタノール向けで50百万ブッシェル下方修正されたため、期末在庫は前月発表から50百万ブッシェル下方修正され、1,777百万ブッシェル(期末在庫率12.98%)と見通された。

シカゴ定期は、2014/15年産について、3月の米国農務省需給見通しによる相場への影響は限定的な状況であり、3月31日発表の2015/16年産作付面積意向調査における作付面積見通しに注目が集まっている。直近の5月限は370セント/ブッシェル前後で推移している。

FOBプレミアムは、原油価格の下落に伴い舁運賃が軟化していることから低水準で推移している。

②大豆粕

3月10日発表の米国農務省需給見通しによると、米国大豆の新穀2014/15年度産は、需要量、供給量ともに前回発表から変更がなく、単収47.8ブッシェル/エーカー、供給量4,086百万ブッシェル、需要量3,701百万ブッシェル、期末在庫385百万ブッシェル(在庫率10.40%)となった。

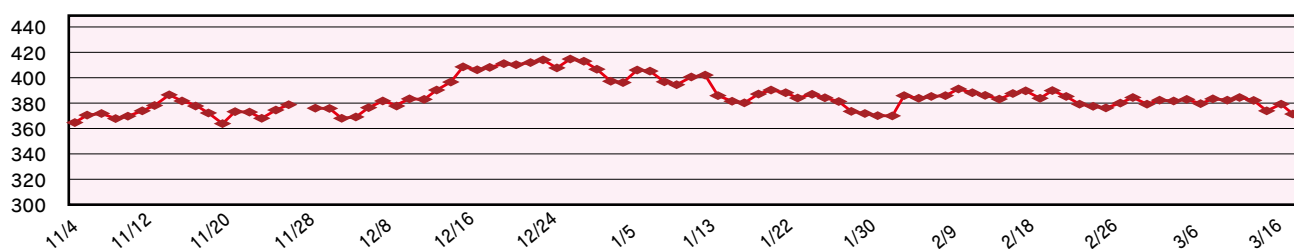
大豆粕のシカゴ定期は、ブラジルリアル安の進行により下落した大豆相場につられ、5月限は320ドル/ショートトン前後で推移している。

■海上運賃

米国ガルフ～日本間のパナマックス型運賃は、船腹需給は南米新穀輸送の引き合いから徐々に引き締まっているものの、原油価格が低水準で推移しており、直近についてはほぼ横ばいで推移している。

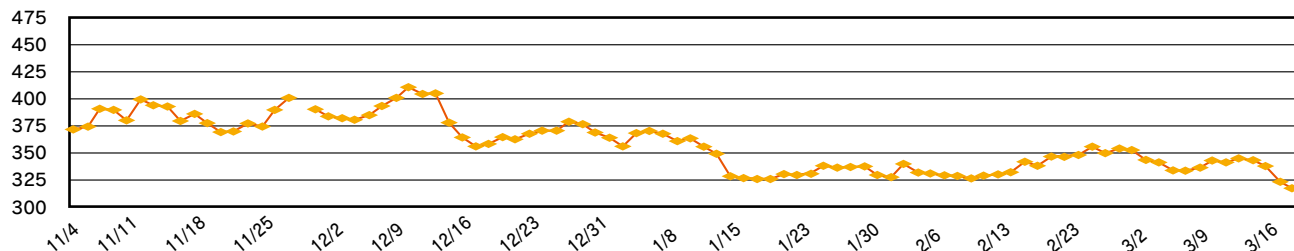
セント/ブッシェル

トウモロコシ 期近限月



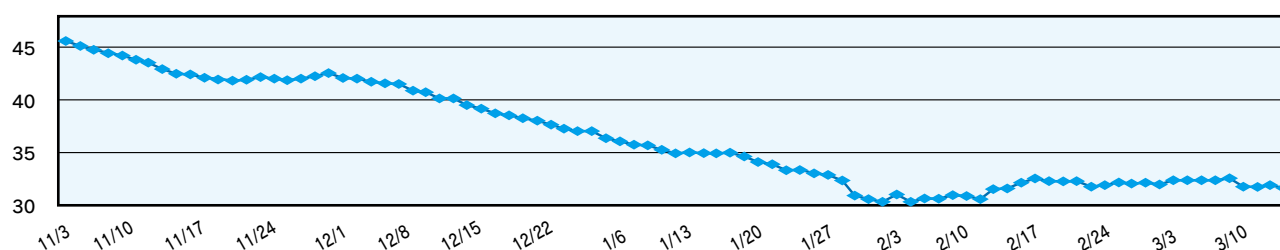
セント/ブッシェル

大豆粕 期近限月



ドル/トン

【海上運賃】



花木流通センター便り

花木流通センターの耳寄りな情報をお届けします！



花木流通センターでは、毎年好評の「ゴールデンウィーク菜園フェア」を今年も開催します！国府果菜苗組合による約80種類の豊富な野菜苗を取り揃え、皆様のご来場をお待ちしております。そして、「ふらわーらんど」では母の日に向け、色とりどりの花を大量入荷いたします。大切なお母さんへのフラワーギフトに、ぜひご利用ください。

5月の売出し・イベント案内

色々な売出しやイベントが目白押し。ぜひお出かけください！

開催日	内 容
4月25日(土) ～5月6日(水)	ゴールデンウィーク 菜園フェア
5月9日(土) ・10日(日)	母の日フェア
5月10日(日) 10:00～	栽培講習会(さつまいも・ネギ) 【参加費無料・申込み不要】
5月21日(木) 10:00～ 14:00～	花の寄せ植え講習会 (各回20名まで) 【参加費・申込み方法等 問合せ先：ふらわーらんど】
5月25日(月) 10:00～	花の寄せ植え講習会 【参加費・申込み方法等 問合せ先：ふらわーらんど】

※売出し・イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

花木流通センター

営業時間：年中無休/9:00～18:00

(節電のため7月～9月毎週火曜日定休)

取扱商品

■園芸資材館/営農・園芸資材等 ■ふらわーらんど/鉢花、花苗等 ■JA植木コーナー/緑花木、盆栽等 ■エクステージ/外構・造園工事等 ■ブランド野菜館/産直野菜、農産加工品等 ■外売場/野菜苗、大型肥料・用土、植木鉢等



お問い合わせ先

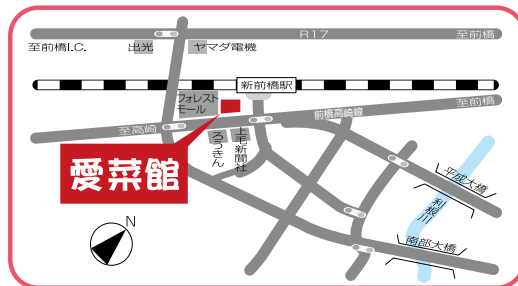
前橋市亀里町1307-1
TEL:027-220-2427
FAX:027-220-2424

愛菜館

営業時間：毎週火曜日定休/9:00～18:00

取扱商品

■産直野菜
農産加工品/店頭精米等



お問い合わせ先

前橋市古市町106-1
TEL:027-210-7788
FAX:027-210-9811

『県本部通信』における個人情報の取扱いについて

『県本部通信』に投稿いただいた方の個人情報は、プレゼントの発送やお返事、紙面での紹介に使用させていただきますのでご了承ください。また、これらの個人情報は前記の目的以外には使用せず、ご本人より事前に同意をいただいた場合以外には一切開示いたしません。

自由なご意見・ご感想をお寄せください。

《あて先》

〒379-2147 群馬県前橋市亀里町1310番
「県本部通信」係まで

E-mail : info-gunma@gm.zennoh.or.jp

※JAメール等でも結構です。

プレート
キャンバスに
見立てて

Art Cooking

Food adviser - 石垣 恵美

1979年から群馬県家の光講師。
FM局等でも活躍中。



かぶとタコのケツパー風味サラダ

材 料

2人分 (1人分160cal)

かぶ…………… 3個
塩水………… 水2カップに塩小さじ2
ケツパー…………… 8g
蒸したコ…………… 50g
レモン…………… 1/2個(表皮)
A (オリーブオイル…………… 大さじ1.5強
レモン汁…………… 小さじ2
塩 コショウ…………… 少々

作り方

- 1 かぶの葉の部分を取り落とし、サッと茹でて水にとる。水けを絞る、1cm程の長さに切る。
- 2 かぶの実の部分は1cmの角切りにし、塩水に10分程つけ、しんなりしたら水けを絞る。
- 3 ケツパーは粗いみじん切りにし、蒸したコは5mm角に切る。
- 4 レモンは皮を塩でもみ洗いし、表皮を薄く剥き、せん切りにする。
- 5 ボウルに1～4の材料を入れ、4の残りの実の部分を絞って入れる。
- 6 5にAの材料を入れ、よく混ぜ合わせる。